



「楓の風」らしい看護の取り組みを発信

在宅療養支援
楓の風

KAEDE TIMES 2025



在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤

-在宅を支える全てのみなさまへ-

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのか

を、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介する、ニュースレターをはじめました！

Case 1

2025 Vol.1

在宅のみなさまへ。私たち、「楓の風」の想いと取り組みを、一人でも多くの在宅関係者の皆様に知っていたい—そんな想いで、「楓の風」らしい取り組みをご紹介したく、ニュースレターをはじめました。
初回となる今号は、「肺炎は回復しているのに、機能訓練がなかなか進まなかかった事例」です。
薬・心理・便秘・頻脈——“動けない理由”に当社の看護師と理学療法士が向き合いました。

ケース

肺炎後せん妄→抑うつ・便秘・頻脈で “動けない...”

肺炎は治ったのに、「動く気がしない」

—“病態の背景にある要因”を見極めるところから、私たちの支援は始まりました。

「とてもキツイんだよ...」

椅子に座っているだけで、そうこぼされました。肺炎で入院、せん妄もあり、つらい時間をくぐり抜けてきた方です。せん妄は落ち着いたけれど、心はまだ重く、「動けない」より「動く気がしない」というご様子でした。

”動けない理由”に
ひとつずつ向き合う

私たちはすぐに、運動をがんばりましょう、とは言いませんでした。薬のこと、気持ちの沈み、便秘が苦しい感じ…ちょっと動くだけで苦しくなる呼吸や脈のこと。—“動けない理由”的一つひとつに、一緒に向き合います。

看護師

薬理的要因への働きかけ



抑うつの傾向について看護師から家族
→家族から主治医に薬剤調整を相談。
看護師訪問時には摘便実施。

わたしたちの気付き

ある日、「たくさん出たよ」と笑ってくださった日がありました。薬剤管理と便通改善をきっかけに表情が変わってきたのを感じました。

そこから、立ってみる練習、筋トレ、屋外まで歩いてみる挑戦へと、一步ずつ進みました。焦らず、でも確実に。

最後には、主治医から「もう通院は大丈夫そうですね」と言われるところまで、たどり着くことができました。

理学療法士は“動き”を見る職種ですが、本当に見るべきは「動けない理由」なのだと、改めて感じました。

そしてさらに大切なのは、利用者様に関わるすべての関係者の方と共に悩み、模索すること。利用者様のこころとからだが「よし、やってみよう」と言える状態をつくる。これが「楓の風」が目指したい、「在宅療養支援」です。

理学療法士

便秘による倦怠感に着目



抗重力筋の賦活・腹圧をかけられる
ようにストレッチや骨盤底筋運動・
便通改善運動を実施。

在宅
療養
支援

楓の風